

持続可能な社会の実現に貢献する企業を目指して



取締役社長

大橋忠晴

ともに豊かで地球環境にやさしい未来に向けて ～マクロな視点で、技術・製品の市場提供による社会貢献を～

私たちは地球に生かされている存在ですが、今日その限界を意識せざるを得ない段階にまできております。温暖化や砂漠化をはじめとする地球環境問題はもはや人類が避けて通れない喫緊の課題です。この状況下で、21世紀を生きる当社の重要な使命は地球環境問題の解決に貢献することにあると考えております。

地球環境が悪化した原因は、私たち先進国が近代化の過程で、利便性を追求するあまり化石燃料を大量消費し貴重な資源を浪費してきたことにあると思います。今日の日本でも、食料の多くを外国に頼り、その生産のため多くの貴重な外国の水資源まで使っているにもかかわらず、無駄に捨てられる食料が農水産業国内総生産額に匹敵する現状にあるなど、先進国における経済活動のロスや過剰な消費は見直す必要があるように思います。

京都議定書で、地球温暖化の問題を解決すべく、先進各国が温室効果ガス削減の約束をしたのも、今までの環境への負荷を見直そうとの反省からきていますが、将来の地球環境問題を考える際に忘れてはならないのは、発展途上国の人々の存在です。

一部に行きすぎがあったとは言え、「快適な生活や利便性を追求すること」は人間本来の欲求ですし、人類発展の原動力そのものですから、それを否定して昔に戻すことができないのと同様、途上国の人々が先進国のレベルを目指すことを否定することはできません。

途上国の人々を含め、ともに豊かな生活を目指しつつ、先進国はエゴを捨てて途上国とともに地球環境問題解決に向けて努力する必要があります。

人類の起こした問題は、人類自身の英知と行動で解決していかなければなりません。幸い、日本をはじめとする先進国は、環境に配慮した経済の発展に新たな道筋を見だし始めています。この英知を生かすことが、私たちにできる大きな貢献になると思います。

社会インフラの構築を主たる事業として取り組んでいる当社も、こうしたマクロな視点を持って、「環境にやさしい」製品・技術を途上国の人々に供給し、さらに、環境問題解決のための技術開発を行うことで地球規模の貢献を追求していくことが大切です。

信頼されるKawasakiブランドに向けて ～環境経営の推進～

当社は2010年の中長期環境ビジョン実現に向けて、着実な歩みを進めてきました。まだまだクリアすべき課題は残っていますが、田崎前社長の尽力により、持続可能な社会に貢献する企業として基礎固めができてきたと感じています。

当社の環境経営の中で、特に次に述べる2つのことを重点として挙げておきたいと思います。

スピーディーな製品・技術の提供で貢献を

まず私たちに求められているのは、環境配慮型の製品や技術すでにあるもので言えば例えば、風力やバイオマスといった自然エネルギーを利用した発電システム、高効率でクリーンなガスタービンコージェネレーションシステム、廃棄物エネルギーの利用設備、クリーンエネルギーである天然ガス関連ではLNG運搬船やLNGタンクなどを、これまで培ってきたノウハウを生かし開発・提供し、顧客に満足いただくことです。これにより、資源の枯渇も懸念されるなか、社会への大きな貢献につながります。

また、鉄道車両や船舶、航空機などの輸送用機器についても、省エネ化の進んだ製品を多く提供することで、地球温暖化防止に貢献することができます。

さらに、電力供給が追いつかないとか、人や物資の物流網の整備も遅れている状況にある途上国への貢献として、昔ながらの化石燃料多消費型で効率の低いものでなく、クリーンなガスタービン発電システムや環境にやさしい大量輸送システムとしての鉄道車両等、Kawasakiの製品・技術を採用していただけるよう活動することは、ビジネスと地球環境への貢献を両立させ、21世紀のグローバル企業として信頼される「Kawasakiブランド」の確立につながると信じています。

「クリーン・オネスト・スピード」

～コンプライアンスを当社の企業カルチャーとして育む～

今や、企業の社会的責任として環境への配慮は不可欠なものになってきました。周辺地域への環境汚染や不適切な廃棄物処理などの反社会的な行為は、厳しく責任を追及され、企業価値を著しく損なうことにもつながります。環境問題に限りませんが、私はコンプライアンスを当社の「企業カルチャー」として育んでいく考えであります。

コンプライアンスというものは、単に法律を守るという表面的なことだけではなく、経営幹部から中間管理層、一般社員に至るまで、一人ひとりが社会常識と照らし合わせて、やっていいことや悪いことや、判断できる目を持つことが大切です。こうした自覚を持っていれば、自ずとコンプライアンスをクリアできますし、社会に貢献する企業として「Kawasaki ブランド」を高めていくことにも繋がることでしょう。

私のモットーは「クリーン・オネスト・スピード」ですが、環境においても、「透明性」と「誠実さ」、「速やかな対応」が重要であると考えます。

地球環境に貢献する企業を目指して ～要らないものは作らず、良いものを大切にすることを～

私は、現代の過剰消費を見直す上で、良いものだけを大事に長く使うというところを広めることが必要であると考えます。製造業の立場で言うと、「価値を認められないものは作らずに、本当に満足してもらえるものだけを世に出していく。高い品質・パフォーマンスの製品を、資源やエネルギーの消費量を最小限にとどめる等環境負荷を極力かけないで生産する」と言うことが大切であると思います。これは、当社の経営理念である、「質重量従経営」の考え方に通じるものであり、私はこれらを積極的に進め、環境経営のさらなる確立を図っていきたいと考えます。

事業活動において、その原動力となるのは従業員でありますので、その環境意識の向上に気を配っていきたくと思っています。何が環境配慮につながる行動なのか、正しく現状を理解し実行できる環境マインドの豊かな従業員であってほしい、また「Kawasakiは地球環境に貢献をしている企業」であることを強く認識し使命感を持って取り組んでもらいたいと思っています。

私のラッキーカラーはグリーンです。若い頃から重要な局面では必ずグリーンネクタイを選び、大きな商談もまとめてきた経験があります。グリーンは環境配慮の証となる色。これからもこれを締め、地球環境の保全・持続可能な社会の実現に貢献する21世紀に生きるにふさわしい企業を目指して前進してまいります。



社長あいさつ	1
会社概要	3
カンパニー・関係会社	3
編集方針	4
2004年度 ハイライト	5
環境経営	
環境憲章	7
中長期環境ビジョンに向けての活動計画	7
最高環境管理統括者あいさつ / 環境管理体制	8
2004年度 重点施策と評価	9
環境会計	10
環境マネジメントシステム	11
環境配慮製品	
製品アセスメント / LCA / グリーン調達	13
代表的な製品の環境負荷低減事例	13
環境配慮製品への取り組み	15
環境保全製品への取り組み	17
特集 / 環境関連ビジネス	19
環境にやさしい「水素社会」に向けて、インフラ整備に貢献	
環境配慮生産	
省エネルギー	21
地球温暖化防止	21
廃棄物削減	22
化学物質削減	22
社会との共生	
社会貢献	23
コンプライアンス	24
情報開示・コミュニケーション	24
社員とのかかわり	25
環境負荷データ	
各カンパニー / 関係会社	27
生産拠点	29